

J28b 全天 X 線監視装置 MAXI による 2012 年度後半の突発天体 (現象) の検出

浅田 真, 根来 均 (日本大学), 芹野 素子 (理研), 中平 聡志, 富田 洋 (JAXA), 森井 幹雄 (東工大) ほか MAXI チーム

前回秋季年会から約半年の間に全天 X 線監視装置 MAXI が発見、検出した突発天体や突発現象の報告を行う。前回年会後から 12 月 10 日現在までの約 3 ヶ月の間、MAXI は引き続き順調に常時観測を行い、ガンマ線バーストを除き X 線新星等の新天体の発見はないが、6 件の ATel への報告と 3(2?) 件の GCN の報告を行った。

再帰 X 線新星 ブラックホール候補天体 H1743-322 (Shidatsu et al. ATel #4419)、Be パルサー GX 304-1 (Nakajima et al. #4420、中島基樹他本年会講演)、LMXB 4U 1608-52 (Sugimoto et al. #4478) の増光を検出し、世界に先駆けて報告した。また、Be パルサー GRO J1008-57 の巨大な二型アウトバーストの検出 (Kuehnel et al. #4355, Nakajima et al. #4561)、プロペラ効果によるものと考えられる MAXI J0556-332 の再増光 (Sugizaki et al. #4524, 杉崎睦他本年会講演)、1 時間半以上続いた同天体過去最長の SLX 1735-269 からの X 線バーストの検出 (Negoro et al. #4622) など、奇妙な天体活動の発見 / 報告も行った。

GRB は、121025A (Asada et al. GCN # 13895) を検出し、121027A では過去最高レベルの明るい X 線アフターグローを検出した (Serino et al. #13908, 芹野素子他本年会講演)。

講演では、これらを含む、MAXI がこの半年間で検出した突発天体や現象の報告と、それらの特異性等についても簡単に報告する。